

トルコ共和国ムーラ県マルマリス市による

姉妹都市提携の希望

2012年8月

在イスタンブール日本国総領事館

今般、トルコ共和国ムーラ県マルマリス市より、日本の都市との姉妹都市提携を希望する旨の要望がありました。以下、マルマリス市の概要を紹介いたします。

1. マルマリス市の概要

(1) 基礎的データ

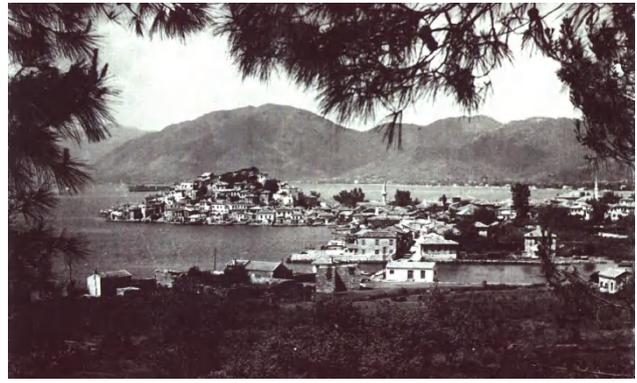
- 所在地 : トルコ共和国ムーラ県マルマリス市
(東経 28.26 度、北緯 36.85 度)
- 市面積 : 866 平方キロメートル
- 人口 : 81,910 人 (2012 年調査)
- その他の姉妹都市 : ドイツ・フェルス市
イスラエル・アシュケロン市
ロシア・ジェルジンスキー
トルクメニスタン・チェレケン市
中国・ジナン市
トルコ・オールドウ市
- 公式ウェブサイト <http://www.marmaris.bel.tr/> (トルコ語)

(2) マルマリス市は、イスタンブールから約 820km、イズミルから約 270km の距離にある、エーゲ海と地中海の交わる地点に位置する風光明媚な沿岸都市です。その自然に恵まれた地形により、ヨーロッパをはじめとして世界各国からビーチリゾートを目的とした観光客が毎夏、数多く訪れます。また、対岸にはギリシャのロードス島などがあり、エーゲ海に浮かぶ島々の玄関口でもあります。



2. マルマリス市の歴史

紀元前3千年ごろ、マルマリスはピュスコスという名前であり、古代都市カリアの湾岸都市として発展しました。その後、ペルシャ、マケドニア、ローマ、ビザンチンなどに支配された後、1522年オスマン帝国の一部となりました。第一次世界大戦後、一時期イタリアに支配されたものの、1922年7月22日に返還されました。現在もマルマリスは、引き続き湾岸都市として、世界各国からの商業船舶、豪華客船などの寄港地となっています。2012年夏には、日本の海上自衛隊遠洋練習航海練習艦隊3隻（かしま、しまゆき、まつゆき）の寄港地にもなりました。



3. マルマリス市の特徴

(1) 温暖な地中海性気候、エーゲ海と地中海の交差点である地の利を生かし、リゾート地として世界中からの観光客を受け入れています。また最初は観光でマルマリスを訪れた外国人（主にイギリス人、ドイツ人、オランダ人）が、土地を気に入りマルマリスに移住するケースも多いことは、マルマリスの住みやすさを示しています。ドイツ、ロシアなど5カ国5都市と姉妹都市提携を結んでおり、国際的都市でもあります。また国際会議や、国際スポーツ競技大会への誘致にも力をいれており、各種施設の建設も進んでいます。

(2) 名前の由来

諸説がありますが、その昔、マルマリス近郊の町に大理石採石場があったことから、トルコ語で大理石を意味する「メルメル」のギリシャ語「マルマロス」が徐々に変化したという説が有力です。

4. マルマリスの産業

マルマリス経済の基盤は観光業です。毎年約100万人の観光客が訪れ、トルコの観光都市のトップ10に入ります。一番多いのはイギリスからの観光客ですが、ここ2年間スカンディナヴィア諸国、オランダ、ベルギーからの観光客が急増しています。観光業の他、マルマリス近郊の村では養蜂業が盛んです。松の木より採れる蜂蜜は、世界的にも有名です。



5. 姉妹都市に関するマルマリス市の意向

トルコと日本は、過去から現在にわたり、常に親愛の情と尊敬の念で結ばれています。現在ヨーロッパからの訪問者が多数を占めているマルマリスですが、日本の一都市と姉妹都市提携を結ぶことができれば、日本の文化紹介の場及び日本人観光客の増加が見込まれ、一層実りのある相互関係になると考えられます。姉妹都市として希望する条件は以下の通りです。

- －東京近郊であること
- －8万～15万人の人口であること
- －行政において、テクノロジーが有効活用されている都市
- －観光業に力を入れている都市
- －日本の伝統が息づいている都市、日本文化紹介に力を入れている都市

【お問い合わせ先】

- | | | |
|--------------------|-----|--|
| ○外務省大臣官房総務課地方連携推進室 | 電話 | 03-5501-8491 |
| | メール | gaimu-renkei@mofa.go.jp |
| ○在イスタンブール日本国総領事館 | 電話 | +90 212-317-4600 |
| 広報文化班 | FAX | +90 212 317-4604 |
| | メール | culture@it.mofa.go.jp |

(了)